

「食事療法で自閉症が完治！！」

米国では100人から150人の子ども達に1人の割合で発達に問題がある子どもが発症、増加していると言われていました。「**自閉症スペクトラム**」(広汎性発達障害、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害など)は何度聞いても良く理解できない発達障害の診断名ですが、その原因や治療方法はまだ確立されてないのが現状です。

今月のタイトル「食事療法で自閉症が完治」はキャリン・セルーシという自閉症の子を持つ母親が書いた本のタイトル(コスモ21、2012/9/12発行)です。

彼女の息子マイルズは、1歳の頃まで中耳炎を繰り返して何度も抗生剤を服用していましたが、特に言語など発達の遅れはありませんでした。15か月頃にMMRワクチン(麻疹、風疹、おたふく)を受けた3日後に、再び中耳炎にかかり、11日後には**原因不明の高熱**、手足が震え、泣き叫ぶようになりました。それからはポーっとして話すことも笑う事もなく、泣き叫ぶ時には牛乳を与えると泣き止むと言う事を繰り返していました。そして20か月頃に「自閉症」と診断されています。

母親はインターネットで**牛乳と小麦を除去すると症状が良くなった例**を知り、早速実行しました。牛乳を除去して1週間後には叫び声が減り、夜もよく眠るようになり、また小麦を除去することと抗真菌剤(ナイスタチン)を服用することにより、4か月後には自閉症の症状がほぼなくなったという事です。

「牛乳たんぱくのカゼイン」と「小麦たんぱくのグルテン」が、胃の中で不完全に分解されることによって**オピオイド**(モル

ヒネ様・アヘン様物質) **ペプチド**(2個のアミノ酸がつながった化合物)が生じることが分かってきました。通常はアミノ酸まで分解されますが、適切な酵素が存在しなかったり抑制されていたら、**オピオイドペプチド**は胃腸から血中へ移動し、そして脳にも影響するという事です。

そこで**自閉症の子ども達は、カゼインとグルテンの消化能力が落ちている**と言われているのです。従って、アヘン様物質に類似したペプチドがあらゆる神経伝達系を妨げる可能性があります。

また何らかの免疫機能の欠如か、または抗生剤の濫用が原因なのか不明ですが、**腸管にカンジダ(カビの一種)が異常増殖**し、腸壁を傷つけて腸の透過性が増すことでペプチドが容易に吸収されるというのです。

最近の研究では、**遺伝子多型**という個人差を生み出す部分の問題と**環境汚染物質**である水銀や鉛(老朽化した水道管より漏出)が相乗的に影響しているという報告もあります。米国では遺伝子や尿中のペプチド、毛髪から重金属を調べると共に、体内に蓄積している有害物質をデトックス(解毒)し、必要なミネラル・ビタミンなどの栄養素を適切に供給する医学が発達しています。

(バイオリジカル療法)

自閉症の疑いがある子ども達には、まず牛乳と小麦を完全に除去し、症状に改善が見られるかを注意深く観察して見ることで。また腸管のカンジダを除去するためにナイスタチン療法も考慮するののも一つの選択肢だという事です。(たまなは)